

第5学年 音楽科学習指導案

1 題材名 いろいろな声の表現を楽しもう♪

教材 「ケチャ」（インドネシア バリ島の民族音楽） <鑑賞教材>
 「ヨーデル」（スイス・オーストリアなどの民族音楽）
 「ブルガリアの合唱」（ブルガリアの民族音楽）
 「ゴスペル」（アメリカ合衆国の音楽）

※学習指導要領とのかかわり：B鑑賞イ，A音楽づくりア

※ [共通事項] (ア)リズム，音の重なり，音色
 (イ)反復，変化，音楽の縦と横の関係

2 題材の目標

- いろいろな国の音楽の特徴や違いを感じ取りながら，それぞれの表現のよさや面白さを味わって聴く。
- リズムや旋律がかみ合わさっている音楽を基に，音の重なりや組み合わせを工夫して音楽づくりをする。

3 題材の評価規準

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
題材の評価規準	①「ケチャ」「ヨーデル」「ブルガリアの合唱」「ゴスペル」のそれぞれの音楽の特徴を聴き取り，そのよさや面白さを感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。	①ケチャの音楽のきまり（音の重なりや反復，変化）を聴き取り，そのよさや面白さを感じ取りながら，音の重なりや組み合わせを工夫し，どのようにつくるかについて発想をもっている。	①リズムや音の重なり，組み合わせに着目して，ケチャの音楽をつくっている。	①ケチャの音楽のきまり（音の重なりや反復，変化）を理解し，そのよさや面白さを感じ取って聴いている。 ②声の出し方や声の重ね方などに着目しながら聴き比べ，いろいろな声の表現を聴き味わっている。

4 指導と評価の計画（全3時間 本時 1／3）

時	ねらい・学習活動	教材	評価項目及び評価方法
	ねらい：ケチャの音楽のきまり（音の重なりや反復，変化）を理解し，そのよさや面白さを感じ取って聴く。		
	○ 「ケチャ」を鑑賞し，どのように声を使っているかを聴き取る。	鑑賞教材	【鑑賞】①

1 時 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 声について聴き取ったことを話し合い、「チャチャチャチャ」と続くことに疑問をもたせながら、ケチャの音楽のきまり（「ケチャのきまり」という）を見付けたいという課題意識をもつ。 ○ A, B 2つのリズムフレーズを、順次、手拍子で即興的に表現する。 ○ A, B 2つのリズムフレーズを「チャ」と「ク」で組み合わせて表現することで、ケチャのきまり（音の重なりや反復, 変化）を知る。 ○ いろいろなリズムでも即興的に表現してリズムや重なりの変化を試してみる。 ○ ケチャのきまりに着目しながら、そのよさや面白さを感じ取って聴く。 ○ ケチャのきまりのよさや面白さについて、要素等に注目しながら鑑賞カードに書く。 ○ DVD を視聴してケチャのイメージを広げ、ケチャのきまりを使った音楽（ケチャの音楽）をつくらうとする思いをもつ。 	「ケチャ」	<ul style="list-style-type: none"> ・聴いたり表現したりしている時の様子 ・発言の内容 ・鑑賞カードの記述内容
ねらい：リズムや音の重なり，組み合わせに着目して，ケチャの音楽をつくる。			
2 時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時で聴き取ったことを想起しながら「ケチャ」を鑑賞し、ケチャの音楽づくりへの見通しをもつ。 ○ リズムや音の重なり，組み合わせに着目して，ケチャの音楽をつくる。 ○ リズムフレーズの組み合わせや重ね方，つなぎ方について聴き合い，より思いや意図に合った音楽になるように練り上げる。 ○ グループごとにつくったケチャの音楽を発表する。 	鑑賞教材 「ケチャ」	【創意工夫】① <ul style="list-style-type: none"> ・記譜カードの記述内容 ・発言の内容 【技能（音楽づくり）】① <ul style="list-style-type: none"> ・演奏の聴取
ねらい：声の出し方や声の重ね方などに注目しながら聴き比べ，いろいろな声の表現を聴き味わう。			
3 時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ケチャ」と同じように，声の表現による音楽として，「ヨーデル」「ブルガリアの合唱」「ゴスペル」を聴き比べる。 ○ それぞれの音楽の特徴について，聴き取ったことを話し合う。 ○ 声の出し方や声の重ね方等に違いがあることを共有化する。 ○ 適宜，聴きながら，まねをしてやってみる。 ○ 声の出し方や声の重ね方などの特徴やよさを感じ取りながら「ヨーデル」「ブルガリアの合唱」「ゴスペル」を聴き味わう。 ○ 鑑賞カードに聴き取り感じ取ったことを書き表す。 	鑑賞教材 「ケチャ」 「ヨーデル」 「ブルガリアの合唱」 「ゴスペル」	【関心・意欲・態度】① 【鑑賞】② <ul style="list-style-type: none"> ・聴いている時の様子 ・発言の内容 ・鑑賞カードの記述内容

5 本時（1／3）

(1) 本時のねらい

ケチャの音楽のきまり（音の重なりや反復，変化）を理解し，そのよさや面白さを感じ取って聴く。

(2) 指導の構想

① 音楽づくり（即興的な表現）を通して、ケチャのきまり（「音の重なり」「反復」「変化」）を理解させる。

リズムフレーズAを基にして、リズムフレーズBをつくる。その際、リズムフレーズAの休符になっているところを埋めるように「八分音符♪」を入れていく。そして、出来上がったリズムフレーズA、Bを組み合わせ、リズム打ちをしたり、「チャ」「ク」の言葉で即興的に表現したりさせる。こうして、簡単な「ケチャ」をつくりながら体感することによって、聴いただけでは分かりにくかった「ケチャのきまり」について理解できるようにする。理解させたいきまりは、「互いの空いているところを埋め合うように組み合わせられて繰り返されていること」である。

② ケチャのきまりを、リズム譜を使って視覚化する。

リズムフレーズAの休符になっているところを埋めるように「八分音符♪」を入れていくとリズムフレーズBになる。その仕組みがよく分かるように、2つのリズム譜を拡大して上下に並べ、矢印でつなげるなど工夫して視覚化する。これによって、リズムフレーズAに対してリズムフレーズBが逆行していることにも気付かせることができる。また、両方のリズムフレーズを合わせたリズム譜を使うことで、合わせて演奏すると「八分音符♪」の連続になってきこえることを理解させる。

(3) 展開

学習内容（時間）	主な教師の働き掛けと児童の反応	・留意点 評価
1 「ケチャ」を聴き、聴き取ったことを話し合う。 （8分）	○ これから聴く音楽は、声でできている音楽です。どのように声を使っているのか、考えながら聴いてみましょう。 ・どんな声なのかな。楽しみだな。 ○ どのように声を使っていましたか。 ・声は声だけど、歌っていないよ。叫んでいるよ。 ・めちやくちゃに「チャチャチャチャ」と言っているみたい。 ・めちやくちゃなのかなあ。何かきまりがあるのかな。	・「ケチャ」を1回聴かせ、声に関する気付きを促す。曲名は、まだ伝えない。（ケチャの重なりが分かるところまで聴かせる。） ・児童の発言やつぶやきから、何かきまりがあるのだろうかという疑問をもたせていく。
2 即興的な表現を通して、ケチャのきまりに気付く。 （20分）	○ 実はこの音楽は、「ケチャ」という名前の音楽です。これから、ケチャのきまりを見つけていきましょうね。 ・どんなきまりがあるのかな。よし、見つけてみよう。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> ♪ 「ケチャのきまり」を見付けよう。 </div> ○ 今から先生が、同じリズムを繰り返し打ちます。それをまねして打ってみましょう。 ・お休みのところがあるから、少しむずかしいな。 ・タイミングよく打つことができたよ。 ○ 今度は、先生の打つリズムの空いているところ（休符）を埋めるように打ってみましょう。	・導入からの驚きや疑問を大切にしながら、課題意識をもたせる。 ・リズムフレーズAのリズム打ちのまねをさせる。できない場合は、ゆっくりとできる速さでやってみるようにさせる。 ・リズム打ちの状況を把握

- ・あれ、タイミングよく打てないな。
 - ・リズム譜を見て打つとできるぞ。
- では、両方のリズムフレーズを合わせて打ってみましょう。どうなるかな。
- ・両方合わせると、お休みなしで、ずっと打っているみたいに聞こえる。
 - ・不思議だな。おもしろいな。
- 今打ったリズムを「チャ」と「ク」の言葉でやってみましょう。
- ・繰り返すとこんがらがって、うまくできないよ。
 - ・リズム譜をみてやるとやりやすい。
 - ・AとBの役割を交換してやってみよう。
 - ・「チャチャチャチャ」と、「チャ」がずっと続いているように聞こえるぞ。さっき聴いた「ケチャ」の音楽みたいだな。
- 最初に聴いた「ケチャ」の音楽は、このように、互いのリズムの空いているところを埋め合うように重なってできているのです。

ケチャのきまりは、「いくつかのリズムが繰り返し演奏されながら、互いにうまくかみ合わさっているような重なり方をしていること」です。

- では、このきまりを使って、他のリズムでも試してみよう。
- ・「ケチャのきまり」が分かったぞ。
 - ・いろいろなリズムを組み合わせてもできるよ。
 - ・もう一度「ケチャ」の音楽を聴いてみたいなあ。

- しながら拡大したリズム譜を掲示し、それを手掛かりにしてやってみるよう
- にさせる。
- ・両方合わせると連続で打っている状態になることに気付かせる。
 - ・ペアでやってみるよう
- にさせる。
- ・リズムフレーズA、Bのどちらも体験させ、「チャチャチャチャ」と続けて聞こえることを体感させる。
 - ・児童のつぶやきや発言を拾いながら、「ケチャのきまり」につなげていき、ケチャの音楽を構造的に捉えさせる。
 - ・ペアで、即興的にいろいろなリズムフレーズをつくったり、基のA、Bリズムフレーズとつなげたりして、リズムや重なりの変化も感じ取らせる。
- (適宜、記譜カード活用)

3 ケチャのきまりを聴き取り、そのよさや面白さを感じ取る。(12分)

- ではもう一度、「ケチャ」の音楽を聴いてみましょう。ケチャのきまりが聴き取れるかな。
- ・あちこちで「チャ」って言っているのが分かったぞ。
 - ・わたしたちよりも、「チャ」がたくさんあって迫力がある。
 - ・「チャチャチャチャ」と続く中にも、ちゃんときまりがあるんだな。
- ケチャのきまりのどんなところがおもしろいのか、鑑賞カードに書きましょう。
- ・違うリズムがうまく組み合わさって繰り返し続くことでひとつの音楽ができているのがすごい。
 - ・いろいろな感じの声のリズムに乗ってきれいに重なって聞こえてくるところがおもしろい。
 - ・「チャ」の繰り返しの中にも、リズムや重なりが少しずつ変わっているところがおもしろい。

- ・「ケチャ」の音楽を聴いて、リズム、音の重なり、反復、変化に着目させながら、ケチャのきまりのよさや面白さに気付かせる。

【鑑賞】(鑑賞カードの記述内容)

A : Bの要素等のかかわりによる面白さを記述している。

B : リズム、音の重なり、反復、変化に着目した記述をしている。


※ Cと判断される児童に

	<ul style="list-style-type: none"> ・「チャチャチャ」の声の感じや重なりが変化することで迫力がでてきているんだ。 ・このきまりがあるから、豊かな音楽になっている。 	<p>は、板書を手掛かりにして、傍で一緒に聴きながら、感想を述べるように促す。</p>
<p>4 ケチャのきまりとそのよさや面白さを共有化し、ケチャの音楽をつくりたいという思いをもつ。 (5分)</p>	<p>○ いろいろな面白さがありましたね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>いくつかのリズムがうまく重なって、それらが繰り返したり変化したりするところにケチャのきまりの面白さがあるのですね。</p> </div> <p>では最後に、DVD で演奏の様子も見ながら、ケチャのきまりを聴いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの人たちが声を出していてすごい迫力だ。 ・こんなふうに動いてチャチャチャと言っていたんだ。 ・ケチャのきまりって本当におもしろいな。 ・わたしたちもケチャの音楽をつくってみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・DVD を視聴させ、声の出し方や動きにも着目させる。 ・児童の記述内容やDVD からの気づきから、ケチャのきまりのよさや面白さを引き出し、ケチャの音楽をつくりたいという思いへつなげていく。

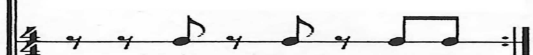
***参考資料**

♪ケチャのきまり

リズムフレーズA



リズムフレーズB



AとBを組み合わせると

